

神奈川県での豚熱発生に係る  
防疫対策連絡会議  
(持回り開催)

開催日：令和3年7月9日（金）

出席：知事、危機管理局、  
生活環境部、農林水産部

# 会議内容

- 1 豚熱の国内発生状況
- 2 神奈川県における豚熱発生概要
- 3 鳥取県の対応状況
  - (1) 神奈川県の発生事例に対する鳥取県の対応
  - (2) 今後の豚熱防疫体制
- 4 お願い

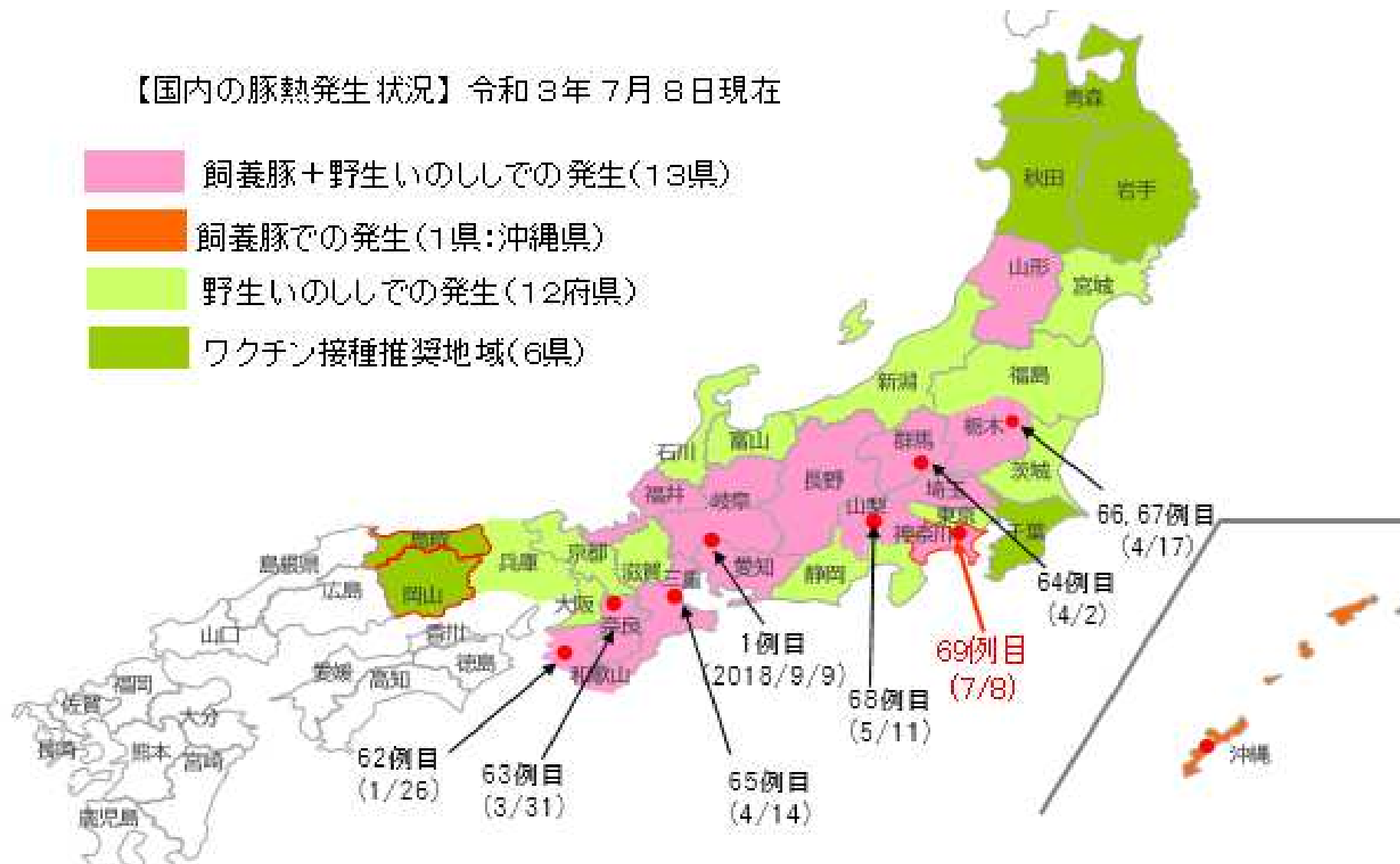
## 国内発生状況

- 1 平成30年9月9日、岐阜県養豚農場で発生(1例目)し、令和3年1月にかけて岐阜県、愛知県、長野県、三重県、福井県、埼玉県、山梨県、沖縄県、群馬県、山形県及び和歌山県で発生。今年3月以降も、奈良県、群馬県、三重県、栃木県(2農場)、山梨県のいずれもワクチン接種農場で発生。
- 2 野生いのししの感染は25都府県に拡大。  
兵庫県では、令和3年3月16日に丹波市の死亡いのしし2頭で初確認し、6月30日まで22頭の陽性を確認。

# 豚熱が確認された都府県

【国内の豚熱発生状況】令和3年7月8日現在

- 飼養豚+野生いのししでの発生(13県)
- 飼養豚での発生(1県:沖縄県)
- 野生いのししでの発生(12府県)
- ワクチン接種推奨地域(6県)



# 豚熱の国内発生状況(飼養豚)

	発生地	畜種	発生日	飼養羽数	防疫措置完了日	その他
1~58	岐阜、愛知、長野、三重、福井、埼玉、山梨、沖縄	豚、いのしし	H30. 9. 9~ R2. 3. 12	138, 527頭		
59	群馬県高崎市	豚	R2. 9. 26	5, 887頭	R2. 10. 9	
60	山形県鶴岡市	豚	R2. 12. 25	1, 250頭	R2. 12. 29	
61	三重県伊賀市	豚	R2. 12. 29	7, 026頭	R3. 1. 7	
62	和歌山県かつらぎ町	豚	R3. 1. 26	267頭	R3. 1. 29	
63	奈良県奈良市	豚	R3. 3. 31	1, 089頭	R3. 4. 3	
64	群馬県前橋市	豚	R3. 4. 2	9, 970頭	R3. 4. 16	(関連1農場含)
65	三重県津市	豚	R3. 4. 14	約10, 000頭	R3. 4. 23	
66	栃木県那須塩原市	豚	R3. 4. 17	17, 266頭	R3. 5. 17	
67	栃木県那須塩原市	豚	R3. 4. 17	22, 096頭	R3. 5. 17	
68	山梨県中央市	豚	R3. 5. 11	2, 523頭	R3. 5. 18	
69	神奈川県相模原市	豚	R3. 7. 8	4, 328頭	作業中	(関連1農場含)

# 豚熱の国内発生状況(野生いのしし)

野生いのししでの検出状況(令和3年6月30日現在  
農水省調べ) →陽性例は25都府県で確認

県名	陽性確認頭数	検査頭数
宮城県	1頭	193頭
山形県	3頭	208頭
福島県	24頭	239頭
茨城県	40頭	1,293頭
栃木県	31頭	787頭
群馬県	123頭	2,256頭
埼玉県	118頭	1,312頭
東京都	9頭	143頭
神奈川県	27頭	912頭
新潟県	40頭	405頭
富山県	80頭	681頭
石川県	51頭	665頭
福井県	147頭	1,381頭

県名	陽性確認頭数	検査頭数
山梨県	71頭	369頭
長野県	268頭	1,311頭
岐阜県	1,211頭	5,705頭
静岡県	312頭	3,999頭
愛知県	139頭	2,503頭
三重県	410頭	4,552頭
滋賀県	259頭	1,296頭
京都府	57頭	340頭
大阪府	12頭	30頭
兵庫県	22頭	329頭
奈良県	35頭	318頭
和歌山県	35頭	318頭
合計	3,525頭	31,572頭

# 神奈川県が発生事例の概要

## 1 農場の概要（国内69例目）

場 所：神奈川県相模原市

飼養状況：4, 328 頭

疫学関連農場：神奈川県相模原市（1農場）

疫学関連施設：神奈川県横浜市（1施設（と畜場））

## 2 概要及び検査結果

7月7日 豚熱ワクチン接種のために県央家畜保健衛生所  
の家畜防疫員が立入。農場主より「豚が異常を  
呈している」との申し出。

同家畜保健衛生所の検査で豚熱の陽性反応。

7月8日 動物衛生研究所（注）の遺伝子解析で豚熱感染  
確認。

（注）国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構動物  
衛生研究部門：国内唯一の動物衛生に関する研究機関

# 国の対応状況

## ■ 7月8日(木)

- ・農林水産省豚熱、アフリカ豚熱対策本部会議の開催
- ・全都道府県へ情報提供
- ・飼養衛生管理基準の遵守、早期発見、早期通報徹底を通知
- ・神奈川県へ国の疫学調査チーム派遣を決定

## ■ 国の野生いのしし対策

- ・捕獲強化対策(ワナ増設等)
- ・農場への侵入防止対策(侵入防止柵設置支援)、全国の都道府県対象
- ・経口ワクチン散布を23都府県で実施



# 神奈川県が発生事例に対する鳥取県の対応

- 1 発生情報の周知(市町村、養豚農場、農協等関係機関)  
(7/8)
- 2 県内養豚農場の状況確認と注意喚起(7/8)
  - ・県内養豚農場といのしし農場に異常の有無等を電話聞取  
⇒ 異常なし、神奈川県の養豚農場との疫学関連無し
- 3 農場の野生いのしし等野生動物の侵入防止策の徹底
  - ・農場出入口への消石灰散布の徹底を指示
  - ・侵入防止柵の点検、長靴の衣服の交換、車両消毒、早期通報等を再度徹底するよう指導
- 4 県境付近の野生いのししのモニタリングを強化  
(検査頭数 R2年度 200頭→R3年度 300頭に増加)
  - ・平成30年9月から令和3年7月7日までに県内全域で死亡、捕獲された野生いのしし392頭について全て豚熱陰性を確認。

# 今後の豚熱防疫体制(飼養豚)

- 1 飼養豚、いのししへの豚熱ワクチン接種等
  - ・4/5(月)～4/26日(金)に初回一斉接種済(50,035頭)
  - ・繁殖豚等への補強接種及び生まれてくる子豚、導入豚への追加接種を実施中(6/30までに10,172頭接種)
- 2 ワクチン接種農場の抗体モニタリング(5/17～7/2)  
初回検査対象15農場407頭検査を行い、401頭(98.5%)でワクチンによる抗体陽性を確認。
- 3 ワクチン接種体制強化  
県認定獣医師(民間獣医師)による接種体制の活用実施
- 4 飼養衛生管理基準遵守の指導実施中(4月～)

# 今後の豚熱防疫体制(野生いのしし)

## 1 野生いのししへの豚熱経口ワクチン散布のため、鳥取県豚熱感染拡大防止対策協議会を設立(7/6)

【構成】県各課、市町、(公社)鳥取県畜産推進機構、猟友会、森林組合連合会、  
養豚生産者協議会

【事務局】鳥取県農林水産部畜産振興局畜産課、  
(公社)鳥取県畜産推進機構

【役割】補助事業実施計画作成、交差汚染防止、  
ワクチンの管理及び散布、情報提供、  
散布・回収データ管理等



## 2 豚熱経口ワクチン導入全国協議会への加入手続き中

※経口ワクチン(約1万個)は全国協議会から県協議会へ無償で供与

## 3 今後のスケジュール

- |       |                              |
|-------|------------------------------|
| 7月下旬  | 補助事業交付申請(経口ワクチン散布人件費等 約1千万円) |
| 8月下旬  | 散布地点の選定及び地元との調整              |
| 9月下旬  | 第1回目散布開始                     |
| 10月下旬 | 第2回目散布開始                     |

# 豚熱対応窓口

(24時間対応しています。)

## ■生産者の皆さんの相談窓口

鳥取家畜保健衛生所	0857-53-2240	(夜間休日は転送)
倉吉家畜保健衛生所	0858-26-3341	(        "        )
西部家畜保健衛生所	0859-62-0140	(        "        )

## ■豚熱に係る死亡いのししに関する通報窓口

畜産課	0857-26-7286	
	090-8061-9109	(休日、夜間)

## ■豚熱に係る野生いのししに関する相談窓口

緑豊かな自然課	0857-26-7979	(夜間休日 0857-26-7111)
中部総合事務所環境建築局	0858-23-3275	(夜間休日 0858-22-8141)
西部総合事務所環境建築局	0859-31-9320	(夜間休日 0859-34-6211)

## ■平日夜間、休日、祝日相談窓口

県庁受付	0857-26-8663
------	--------------

# お願い

- 豚熱は、豚、いのししの病気であり、人に感染することはありません。また、感染豚の肉が市場に出回ることもありません。
- 今回使用する豚熱ワクチンは、医薬品、医療機器の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律に基づき、農林水産大臣に承認され、有効性及び安全性が確認されており、豚熱ワクチンを接種した豚肉を食べても問題はありません。
- 野生いのししの検査状況から、県内に豚熱が浸潤している可能性は低いと考えられます。異常な死亡した野生いのししを発見した場合は、県畜産振興局畜産課まで連絡し、その指示に従ってください。
- 現場での取材は、本病のまん延を引き起こすおそれがあることなどから厳に慎むよう御協力をお願いいたします。特に報道関係者の皆様におかれましては、養豚農場へ立ち入るような取材は防疫上ご遠慮ください。